

そらんぽへ行こう

問 博物館・プラネタリウム (TEL 355-2700 FAX 355-2704)

企画展

「昭和のくらし 昭和のまつり」

市立博物館では3月1日(日)まで、昭和初期から太平洋戦争を経て大きく変化した激動の暮らしを紹介する企画展「昭和のくらし 昭和のまつり」を開催しています。

本展は、電気・ガス・水道がまだ家庭では便利に使えなかった「昭和初期」と、電化製品が少しずつ家庭に入り、暮らしが豊かになりつつあった「昭和30年代」の二つのテーマ展示を中心に、暮らしの道具を切り口として、人々の生活がどのように移り変わったのかを紹介します。



鯨船山車模型

また、いつの時代も暮らしが彩ってきたものの一つに祭りがあります。そこで、今回は戦前から四日市で最大の祭礼として多くの人々に親しまれた「四日市祭」を取り上げます。練り物や豪華な山車が出て最盛期を誇った戦前の四日市祭と、四日市空襲で山車などが焼失したものの、一部復興した戦後の四日市祭を比較しながら、その歴史をたどります。

当時の貴重な写真や実際に使用されていた道具を展示していますので、ぜひご覧ください。

文化財さんぽ

問 文化課 (TEL 354-8238 FAX 354-4873)

海山道神社「狐の嫁入り神事」

「みやまどさん」と呼ばれ親しまれている海山道神社では、毎年節分の日に厄祓行事として「狐の嫁入り神事」が行われ、大勢の人でぎわいます。

これは海山道神社の神様の使いである福德家の娘狐・福子が、助四郎家の跡継ぎ狐である助太郎のもとへ嫁入りする道中を表しています。

新郎・新婦は仲人・親族を伴って練り歩き、参道の鳥居をくぐって本殿前の広場に設けられた結婚式場に向かいます。



狐に扮して祝儀袋をまく新郎・新婦

式場では、神職によるお祓いの後、仲人狐の「コンコンコン」の発声で式が始まります。三々九度の盆が交わされた後、参拝者に祝儀袋がまかれます。祝儀袋には、お守りとして持っているとお金を得ると言われる神葉が入っています。

華やかな婚礼衣装に狐の面や尾を付けた姿で結婚式を挙げ祝儀袋をまく様子は、見学する人々に幸福感を与えています。ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。